

第668回番組審議会報告

2022年5月10日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 川瀬慈委員、鯨岡秀紀委員
栗栖義臣委員、津村記久子委員、西村久美子委員、増山実委員

■毎日放送出席者

虫明社長 宮田専務 高山常務 磯澤取締役、藪内取締役、酒井取締役
岸本制作スポーツ局長、宗川制作スポーツ局担当局長、
木米チーフプロデューサー、津田コンプライアンス局長、
中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組「謎解き日本一決定戦 X2022」について

(2022年3月27日(日) 21:00~22:48 放送)

【番組概要】

番組MCの今田耕司と、謎解きクリエイター・松丸亮吾による、史上初の“謎解き日本一”を決める新しい大会「謎解き日本一決定戦 X(カイ) 2022」知識量が大きく関係する「クイズ」と違い、年齢を問わず様々な方が楽しめる「謎解き」。頭の良さや記憶力を競うのではなく、「0から1を考える」ことが求められる、“ひらめきで競い合う頭脳戦バトル”が新しく開幕！昨年12月25日から5万人超が参加し1次予選がスタート。4回の予選を勝ち抜いた上位8組16人が、史上最強の決勝大会に挑む。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *テンポのよさはすごくよかった。新しいタイプの作り方で、すごく気持ちがいい感じがした。漫才とかドラマの謎解きとか、飽きさせない努力をされていて番組作りの工夫がされていると思った。
- *今までのクイズ番組とは全然違う新しいタイプの人たちが出てきている。若い人に向けた新しいものとしてどう育てていくかがこれからの課題。
- *謎解きは好きだが、どうしても問題がテクニカルになり過ぎる。問題の選び

方にもっと工夫が必要では。

- * 松丸さんが前に出過ぎていて「松丸さんカップ」に見える。「謎解き」という新しいビジネスのパッケージとして普遍性がないものに見えるのが残念。
- * 家族で番組を楽しく拝見した。回答している人たちがどういう頭の流れで回答にたどり着いたのかわかるともって面白いと思った。
- * 出場者の見た目の印象とか年齢、性別が割と統一された感じになってしまっていて、あまり感情移入ができなかった。
- * 言葉の意味を限りなく記号化して、その記号を組み換えて、さらに新たな記号を生成させていくという独自のジャンルと理解して、なるほどと思って見た。論理的思考を養うよりは、記号情報の処理のスピードを競い合うエンタメと感じた。
- * すごく難しい問題を、出場者がいとも簡単に解いていくことに驚いた。なるほどと納得してカタルシスを得られるよりは、フラストレーションを感じるが多かった。視聴者が疎外感を抱くのではないかと危惧した。
- * ボクシングの定義を「暴力をスポーツの枠組みで正当化した」と言ったのはかなり甚だしい間違いだと思う。暴力は犯罪であり、非常に気になった。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 謎解きという馴染みのないジャンルを楽しく見ていただくことがいかに難しいか実感した。出場者はすご過ぎる人たちなので、人間らしさが希薄になったことが遠く感じてしまう一因になったと感じた。
- * 謎解きを一般的なエンターテインメントにしていくためには、松丸さんの存在感をいい意味で消していくことが必要と感じる。解説を大事にしながら存在感を薄めることが課題だと思う。
- * カタルシスよりもストレスに感じることにについて、いかに気持ちよく見られるか非常に難しいと感じた。視聴者から見て身近に感じることと日本一の戦いであるという納得感の両立に、さらに挑まなければいけないと思う。

*ボクシングの表現に関しては、不快に感じる方がいらっしゃるところについて今後、非常に気をつけなければならないと思った。

以 上